

## 第1回四国中央市国際交流ビジョン委員会 議事録

- 日 時 : 平成25年8月2日(金) 19:00~21:00
- 場 所 : 四国中央市福祉会館3階 会議室1
- 出 席 者 : 和田寿博、加地令子、石川雄一、尾崎誠貴、渡辺雅道、篠原裕二、篠原祥子、秦賜佳  
ショーン・モンゴメリー、スシダバンチ知子(順不同)
- 事 務 局 : 四国中央市4名
- 配 布 資 料 : 四国中央市国際交流ビジョン委員会条例  
四国中央市国際交流ビジョン委員会委員等名簿  
国際交流ビジョン策定スケジュール  
第1回四国中央市国際交流ビジョン委員会 次第  
ビジョンの構成、理念、目標、施策、推進体制(案)  
四国中央市の国際化のまとめ  
外国人アンケート、国際交流活動者アンケート、企業アンケート調査結果

### ■議事録

#### 【委嘱式】進行：事務局

1. 開会
2. 委嘱式 委員10名に委嘱状を交付
3. 真鍋副市長あいさつ
4. 委員の自己紹介、事務局自己紹介

#### 【委員会】進行：委員長

1. 事務局案により和田寿博委員長、加地令子副委員長を選出、正副委員長あいさつ
2. 事務局より四国中央市の国際化の現状、外国人アンケート等の調査結果、国際交流ビジョンの概要の説明があった。

委員長：強調点はなにか。

事務局：国際化懇話会の中で、防災対策と誰もが参加できるイベントを開催して欲しい意見があった。

委員長：アンケート結果、国際化懇話会での意見、国際交流に関わった人たちの要望など強調点を書いてある。そういうところから委員のご意見を伺いたい。四国中央のコミュニティを作っていく上で、何か紹介してほしい。

委 員：住民基本台帳の説明文が中国語で郵送されてきた。その中国語の説明文がわかりにくかった。ある程度日本語ができる人には、日本語の文書の方がよかった。結局、予備の案内の時には日本語しかなく、最終的な文書には中国語の文書があった。

委員長：日本社会全体が防災を重視している。外国人にも緊急時に情報提供する必要がある。日常的な状況でも街の中に、英語・中国語・タガログ語などの多言語表記があった方がいいのではないかというのが前回からの意見だった。今の話も、住民基本台帳そのものよりも、多言語表記についての話だったと思うが、アメリカではどうか。

委 員：カリフォルニアでは英語もスペイン語も両方の表記が多い。スペイン語だけの表記も多い。

委 員：北の方はロシア語も多い。

委員長：それは、州がそういう表記をしようと心がけているのか。

委員：スペイン語を使う市民が多い。

委員：ヒスパニック系の人が多くなったため。

委員：アメリカ人よりもヒスパニック系人が多くなった。学校でも両方の言語が喋れる先生の雇用が増えている。

委員長：そういう観点から、四国中央の表記・表現はどうか。実習生がいる工場は日本語・中国語の表記はあるのか。

委員：注意書き、規律などは翻訳して工場に貼ってある。生産ライン上の他、場内や寮内の生活上での注意事項を日本語と中国語や英語での表記をするようにしている。

委員長：実習生を雇用している会社はバイリンガルで行っているが、街の中はそういう変化も必要かもしれない。

委員：来日したばかりの時は地理や日本語がわからない。地図があれば便利。

委員：研修生はスーパーに行く事が多い。文化の違いから、スーパー等にそういうのがあればいい。また、毎年成人式等の案内をしているが、外国人の方が来ることはない。企業からの案内や協力で参加要請がないと、実習生には伝わらないのではないか。

委員：コミュニティの話になったが、日本人は、成人式には行く。外国人の方はどうか。

委員：自分たちの年代では、成人式がなかった。

委員長：公民権はいくつから。

委員：18歳から。

委員長：パーティはするのか。

委員：この前見たTVでは、学校で式は行っている。日本のように盛大には行っていない。地域ごとではない。

委員長：アメリカはどうか。

委員：アメリカではみんなで参加するイベントは無い。それぞれの年代を大事にしている。ユダ人は13歳でバーミーツアーを行う。メキシコ人は16歳でお祝いをする。私のコミュニティでは18歳は選挙権も得られる。21歳でお酒を飲める。誕生日祝いみたいなもので、みんなで集まっていうのではない。

委員長：授業でも使えるテーマである。

委員：毎年、成人式があるので、文化の違いはあるが、せっかく日本に住んで一緒に生活しているので体験して欲しい。

委員：成人式のイベントはいいと思う。ただ、個人では心細く参加しにくいので、組合とか団体に招待してくれればよい。また、振袖を着て写真を撮れば、一生の記念になると思う。みんな参加したいと思う。

委員：お土産もあるので、ぜひ参加をしてほしい。

委員長：受け入れている実習生は18歳以上なのか。

委員：はい。

委員長：20歳とその前後の年齢も含めて、余力があればご紹介してはどうか。

委員：個人的に招待していいのか、迷惑なのか迷うところがある。出席も無い。

委員長：成人式の所管は教育委員会なのか。

委員：はい。

委員長：教育委員会と組合とが相談して、声掛けてもらうのは1つの方法だと思う。いまのような意見は

ないか。

委員：同じ地区に住んでいる人と、普通に毎日交流できるようになったらいいと思う。やり方については、考える必要がある。例えば、コミュニティにはリーダーがいると思う。松山では、スポーツデー、ローカルな祭りをやっていた。

委員：この辺りでは、公民館活動がある。市報に載っている。また、日本人はシャイなので、あまり話しかけない。

委員：外国人から話しかける方がいいのかもしれないが、外国人もシャイなので難しい。コミュニティの情報を簡単な方法で、会報誌やウェブサイトでの発信があるとよい。

委員：実習生も普段は仕事をして時間がないが、休日は休んでいる。しかし、外に出るとお金がかかる。今は図書館や体育館は無料。標識を街全体に設置するのは無理なので、外国人の行きやすいところからするのがいいのではないか。

委員長：町内の回覧板等は回っているのか。

委員：市報も回ってはいるが、言葉が分からないと、どこに公民館があって、どんなイベントをしているか分からない。それで行けない。

委員：スローガンや警察のパトロールのお知らせがある。

委員：うちの地区だと、組内が家庭を回って、イベントの案内があるのだが。

委員：たまに届く気がするが、あまり読まない。一番の問題は、全部日本語で書いてあるので、読めない。母国語であれば行きやすくなると思う。

委員：私たち日本人にとっても、コミュニティ活動の情報があまりない気がする。年間では春に公民館の活動に出るが、高齢者の活動案内が多く、若者の活動がない。自分のところの回覧では、防災、注意事項、町内清掃の案内が多い。活動という活動案内はない。

委員長：日本人としても、そんなに情報が出回ってコミュニティとしてやっているわけではないが、口コミ情報だったり、出席依頼だったりする。しかし、外国人向けの情報発信については、これからも改善の余地はある。様々なメディアを使っていく等。

委員：日本語ボランティア会に出席している生徒には案内している。中国人は横の連携がいいから。

委員：福祉の仕事をしている時にイベントの情報が偶然手に入り、行って良かったと思った記憶がある好きだから一人で行くこともあるが、不安な面もある。

委員長：5月に議論したときに、防災の話になり、宮城県で会社の社長のリードで逃げて、従業員は逃げられたが、社長は死んでしまった。そのエピソードが日中の交流に関わっている。大学のことはあるが、防災だと予算がつきやすい。生命を守るため、民間にしかできないこともあるし、行政にしかできないこともある。

委員：今回から参加させてもらっている私自身のことだが、中学校から12年間英語を学んできていたが、英語で外国人の方とコミュニケーションを取ること自体が全くないし、すごく苦手。小さいときに近所に身体障がい者の方がいて、その方との交流があった経験から、今でも身体障がい者の方と接するのは全く普通である。40、50歳の方がいきなりそういう方と接するようになると、色々考えると思う。外国人の方との接し方も同じで、自分も今、何の話をすればいいのかわからない。また、自主防災予算はゼロベースで行っている。

今、個人的に研修を受けている。テレビの音声を消して字幕でテレビを見ている。番組は字幕があるが、コマーシャルにはない。実際自分がやってみても、何を言っているのかわからない。たとえば外国人は大災害があったときに、手引きが無かったら、自分がどう動けばいいかわからないと思

う。

鹿児島に行ったときに、ザビエル公園など、避難所になっている。そこでは、日本語と、英語と、中国語とハングルでの標識があった。逃げ方や避難場所の案内など、行政単位でも考えなければと思う。また地域の特性を考えた取り組みが必要でないかと思った。この辺りでは中国語が必要ではないか。

外国の方は中々出難いという話があったが、防災関係から言うと、身体の不自由な方（耳）はこれまでは引き籠もっていたが、今は、バンダナ等で自分の障害をアピールしている。普段から、自分は障害があるが、ここで元気に生活していますよというのを見せないといけないという話もあった。他の人が来るのを待つのも大事だし、出て行くのも大事。

土居町の小富士では中国の若い女性をたくさん雇用しているが、8月15日の盆踊りには声を掛けて、参加を促すこともしている。行政と民間との摺りあわせをもっとしていく必要はある。

委員長： ザビエル公園は観光地であるので、観光客も意識しているのでは。

どういう経緯で盆踊りに中国人を呼ぼうという発想がでてきたのか。

委員： 詳しくは分からないが、働いている人は20代が多いと思う。婦人会の方たちが、娘と同じくらいの年齢なので、娘に浴衣をきせるのと同じように、中国人の若者にも浴衣を着せようと思ったのではないか。公民館では、浴衣のクリーニング代は予算化している。

委員長： 中国人の方が来たのは古いのか。細やかさやリーダーシップがあれば変わるのか。

委員： 自主防災組織にしても強いリーダーシップのある方が一人いれば変わる。

委員長： 自主防災にしても表記の話もあるが、どんな自主防災が立上って、外国の方の議論についてはあるのか。

委員： 実は、外国人の方の話というのは今回が初めて。

委員： ぜひ国際交流協会へ

委員： 多くの文化が共存している中での自主防災を考えないといけないというのは、今回の話を聞いてインターネットで調べてわかった。それまでは頭の片隅にもなかった。

委員： エリアメールだが、あれはみんな来るのか。

委員長： 設定していれば来る。

委員： 何か災害の対策をしなければと思っているが、津波はこないだろうと置いていたり、甘いところがある。

委員： 防災無線も聞こえない。外に出ても聞こえない。

事務局： 地震の時に実習生の対応が不安だと言っていたことがあったが、それを紹介してもらえますか。

委員： 中国ではあまり地震がなく、中国にいた時でも1回位しか体験したこと無かった。34歳で日本に来たが、頻繁に地震がある。その中で、地震があったときに私は机の下に隠れたが、若い実習生たちは、ぜんぜん何もせず、仕事を続けている。教えたら分かった。

先の携帯の話だが、中国人は携帯電話を持っていない。防災無線しか知る術がない。

委員： 地震は緊急放送のラジオ等ある。

委員： それは常に電源をつけていないといけないのでは。

委員長： 日本でもみんなが携帯を持って情報を得られるわけではない。外にいるときには、みんなが声を掛けてあげられるような雰囲気作りが大切なのは。

事務局： 愛媛県とソフトバンクが協定を結び、集会所に公共の無線LANの基地局を設置することになった。

災害時は通話ができなくなるので、無線 LAN ネットワークを使ってもらうことが可能になった。

委員： そういうことを伝えていかなければならない。

委員： 携帯は持っていないのですよね、殆ど。

委員： 制限されている。持っていて、会社としか通話できない。

委員： 地震が起こったら、防災無線から情報がでますね。その時のために英語や中国語の文は用意されているのか。

委員： それは、以前も議論があって、次々に言語を変えて放送していると、自分の言語が回ってくるのにタイムラグがあって、遅くなるという問題もある。

事務局： 宮城県の津波の時も、順番に言語を変えて放送したが、待てきれずに逃げたという経験がある。もっと短くするか、別の方法を検討していると思われる。それよりも逃げ道や方法を日頃から訓練をしておくことが効果的。

委員： イベントの案内なんかの余裕のあるときは、多言語放送は有効だと思う。

委員： 一番大事なものは、地区長に外国人の把握を徹底するのが必要なのでは。

委員： 言語が違うということは今まで出てこなかったもので、これからは加えていかないといけない。

委員長： 3.11 以降のテーマだと思う。

大きく 4 つの柱がある。目標 3 は企業のこと。今日は時間の関係で企業の皆さんの話があまり聞けていない。しかし知恵はいただきたい。一堂に会してミーティングする機会が従来は無かったので、こういう委員会というものが必要になってくる。こういうビジョンを作っていくことになるが、そこで知恵を出してもらい、推進体制を考えていかなければと思う。

アメリカとかでは国際交流のボランティアがいてネットワークを作っているのか。

委員： よく分かりません。特に大きな町では、多様な外国語で情報発信していると思う。

ロサンゼルスにはメキシコ人が多いから、政府からスペイン語で情報を出していると思う。

多くない人種の言語は NGO がやっているかもしれない

委員長： 行政と NGO との連携が必要。そういう NGO を作りたいという提案をしていきたいということ。

次回開催日は、9 月 19 日か 24 日で調整する。